早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

7.　函館郊外の地図にある「鉄山」の地名を訪ねて

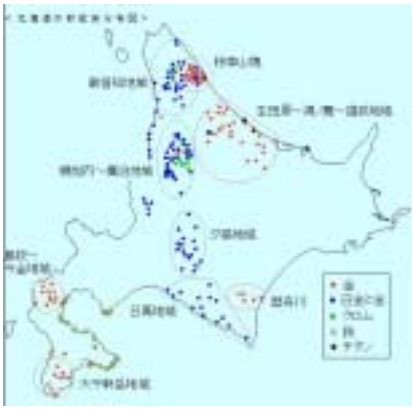
2005.4.24.　hakotetsu.htm　by Mutsu Nakanishi

南茅部より眺めた噴火湾側に沿って続く恵山と亀田半島の山並み　2005.4.24.
この山並みの右端を越えて行くと「鉄山」から函館に至る

北海道南端の函館･渡島半島の地図をみると
噴火湾側の海岸に沿って　南端の恵山から駒ケ岳へ
亀田半島の山並みが続く
その中に函館の町に隣接して「鉄山」の地名がある

この地名を見つけて　もう何年にもなる
「鉄の山に違いない」「どんなところだろう」と。。。。。。

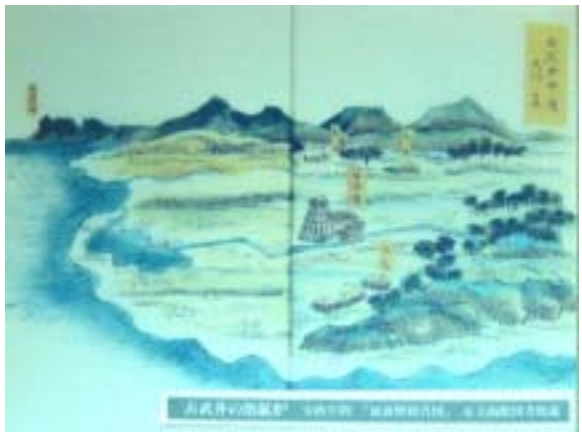
恵山は北海道南端の活火山で、この恵山から駒ケ岳そして長万部に至る海岸沿いは縄文の時代から開けた地であり、また　海岸には砂鉄が堆積する砂鉄海岸。
もっとも　北海道ではたたら製鉄の痕跡は未だなく、もっぱら本州から鉄製品が古くから持ち込まれてきたと札幌の開拓記念館で聞きました。
そして　恵山の南西の津軽海峡に面した海岸　古武井では幕末に北海道ではじめて溶鉱炉が築かれ、周辺の砂鉄を利用して製鉄生産が試みられたところ。



北海道　砂鉄の分布

これはわが国初の高炉操業の試みの一つでもあり、　開拓記念館にはそのパネルがありました。　しかし、実際には鉄生産はうまく行かず、数年で終わったようです。
でも、上記したようにこの恵山を中心とした亀田半島の山並みは鉄を産し、また北海道ではじめて鉄生産がスタートした所と考えられる。

砂鉄の浜　尻岸内　日の浜海岸　(インターネットより)



古武井　溶鉱炉の絵図

古武井溶鉱炉で使われたレンガなど　　北海道開拓記念館で　　2005.4.26.

4 月 24 日　昼　函館の駅の案内所に飛び込んで　鉄山から縄文遺跡の密集地南茅部の海岸へ出るルートを教えてもらう。

「「鉄山」のバス停で下りて　次ぎのバス待って　南茅部へ行きたい。夕方　函館に帰れるよね???　または大沼の方面へも出れるし・・・」と聞く。
「鉄山でおりて　どうするの???ほとんど　何も通らぬ山の中。タクシーも迎えなにいってくれないよ　　南茅部もほぼ　同じ」
と呆れ顔でいわれた。
南茅部も函館に合併して函館市。
ところが　交通の便はすこぶる悪く 2 時間に 1 本のバス路線。
まあ　どうにかなると　出発が迫っていた鉄山を通って南茅部行のバスに乗る。午後 1 時のバスに乗り込む。

函館駅前の「鉄山」から「南茅部」へのバス乗り場

函館から　15 分ほどで五稜郭・湯の川温泉の函館市街を抜けてトラビスチヌス修道院のところから、いよいよ山越え。

幾つか集落が点在する丘陵地を過ぎるといよいよ山が近くなり、30 分程で山の中に入り込み、人家がなくなり、対向車もなく、バスだけが山間の曲がりくねった道を登って行く。　バスの中ももう数人である。

函館トラピスチヌス修道院のところから市街地をぬけ、山に入ってゆく　2005.4.25.

家並がとざえて、しばらくすると眼前に山を大きく切り崩しているのが見えてくる。

「あそこが　鉄山。　バスも 2 分ほど休むよ」と運転手さんが　教えてくれる。

山の斜面に沿った道を大きく山を切り崩している砕石場を見ながら下っていって反対側に回りこんだところでバスが止まる。「鉄山」のバス停である。バス停の向こうにも同じようにやまを切り崩している砕石工場が見える。

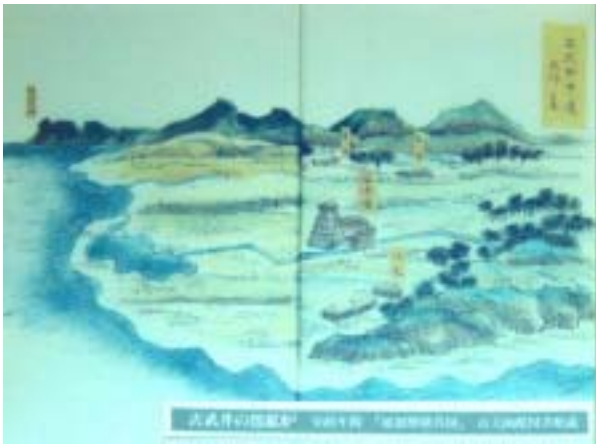
函館市　鉄山町　周辺【1】　　そこは　粗玄武岩の採石場がある山の中　　2005.4.24.

函館市　鉄山町　周辺【2】
柱状節理状の岩脈とそこから堀りだされたブロック状の砕石　粗玄武岩　2005.4.24.

赤茶けた山肌に黒く柱状節理状に縞模様のはいった部分が見え、一瞬　これが鉄の鉱脈と思いましたが、この黒い部分が粗粒玄武岩の岩脈で、きれいな平滑面に区切られた大きな石が採取されている。いずれにしろ地下でのマグマが上がってきて、他の岩の層に貫入凝固した半深成岩である。
深成岩にはマグマには大量の鉄分があり、このあたりに鉄の鉱脈があっても不思議でない。
バスの運転手さんによると昔　このあたりに鉱山があったと言うがさだかでない。　「鉄山」の名もそこから北のかもしれない。
しかし、現在では　ここで採取されるのは粗粒玄武岩の砕石。バラスとして最適な石の様である。
周辺には砕石工場以外になにもなし。
日曜日の昼だったからかも知れないが、人も車も全くとおらず、静まり返っている。山の真っ只中である。
案内所の人が言った意味がやつとわかった。
ただ、ここ「鉄山」でまっすぐ南茅部へ亀田半島の山並みを山越えするルートと南の恵山の方へ曲がって山越えするルートが分岐する。
昔から、ここは茅部や恵山の海岸と函館を結ぶ山越えの道でこのあたりでも鉄がとれ、函館を含めて 3 つのルートで海岸に運ばれたのかもしれぬ。
運転手さんのアドバイスもあり、そのまま　また　バスに乗って、山を越えして「北の縄文」遺跡が並ぶ南茅部の海岸へ下っていきました。

恵山から駒ケ岳へ続く山並み　「鉄山」周辺【3】　2005.4.24.

「鉄山」から亀田半島の山並みを越えて　噴火湾側の海岸へ
そこは「北の縄文」の密集地　南茅部



函館の「鉄山」は火山帯に属する「鉄の山」か　火山帯の禿山と思っていましたが、 雑木林が生茂る山中。
その中で　今はバラストの原料粗粒玄武岩を産する山中の採石場でした。

でもこの恵山から駒ケ岳へと続く亀田半島の山並みは火山帯の中にあり、この海岸では豊富な砂鉄が取れる場所。

「鉄の山」であっても不思議でない。

「たたら製鉄」との関連　鉄鉱脈などについてはよく判らなかったが、鉄との関連が ありそうな場所でした。

この「鉄山」の南の海岸　恵山に近い古武井では　この周辺の砂鉄を使って、幕末に日本最初の溶鉱炉が建てられ、洋式の鉄製錬が試みられたところである。

「鉄山」の地名もこの幕末の鉄精錬と関連した動きの中でついたのかもしれない。

　地図で見つけた「鉄山」　函館の「鉄山」も面白い場所でした。

2005.4.24.午後　鉄山から南茅部へ越えながら

---

ndaichi0300.htm　2005.6.1.　by Mutsu Nakanishi